

# 『アイヌ通史』から アイヌ近現代思想史へ

## 講演要旨

リチャード・シドル先生の『アイヌ通史』(岩波書店、2021年)には、私が思想的にもっとも刺激を受けた2つの描写がある。1つは、レイシズム(人種差別主義)が、近代にとって果たしてきた中心的な役割である。アイヌは、モダニティや文明の進歩を測る指標にされたこと。もう1つは、1960年代後半から1970年代前半を境にあらわれた「新しいアイヌの政治」の軌跡である。シドル先生は、政治活動に結びついたアイヌのアイデンティティの動員のその後の展開を、体制への取り込みとして描いた。だが、「新しいアイヌの政治」が登場しはじめた頃には、これは運命づけられたことではなかった。

1970年代前半に活躍した人々は、そのたびに表現される「アイヌ」はいつも、表現される前にすでに存在したものであるとして(たとえば、モダニティや文明の進歩を測る指標として!)、実はその表現によって遡及的に構築されているということを指摘していた。「人間」というカテゴリーからはじき出された者たちが「われら人間」と名乗るという発想から命名された新聞「アマタリアイヌ」に結実したその人々の活躍とともに、「いま」を思考することが、私が考えているアイヌ近現代思想史の役目である。

講演者

マーク・ウィンチェスター  
(国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー)

日時 2023年12月20日(水)  
16時50分～18時20分

会場 名古屋外国語大学  
日進キャンパス 821 教室

共催 名古屋外国語大学世界共生学部世界共生学科  
名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

連絡先 世界共生学部事務室 担当：宮路、地田  
collabo\_joshu\_gg@nufs.ac.jp



右のQRコードから事前登録をお願いします。

